

R06a Subaru/XMM-Newton Deep Survey (SXDS)

関口和寛 (国立天文台)、秋山正幸 (国立天文台)、青木賢太郎 (国立天文台)、土居守 (東京大学)、布施哲治 (国立天文台)、古澤久徳 (国立天文台)、今西昌俊 (国立天文台)、Cathy Ishida (国立天文台)、家正則 (国立天文台)、鍛冶澤賢 (東北大学)、唐牛宏 (国立天文台)、小林尚人 (東京大学)、児玉忠恭 (国立天文台)、小宮山裕 (国立天文台)、小杉城治 (国立天文台)、前田良知 (宇宙科学研究所)、宮崎聡 (国立天文台)、水本好彦 (国立天文台)、仲田史明 (ダラム大学)、能丸淳一 (国立天文台)、小笠原隆介 (国立天文台)、大内正巳 (東京大学)、佐々木敏由紀 (国立天文台)、嶋作一大 (東京大学)、Chris Simpson (ダラム大学)、高田唯史 (国立天文台)、田中巻 (国立天文台)、上田佳宏 (宇宙科学研究所)、山田亨 (国立天文台)、安田直樹 (国立天文台)、吉田道利 (国立天文台)、諸隈智貴 (東京大学)

すばる望遠鏡を使った観測所大プロジェクトの一つ”Subaru/XMM-Newton Deep Survey”の進捗状況と結果を報告する。”Suprime-Cam”を使ったB,R,i'z'バンドでの撮像観測は、初期目標の約1.3平方度について限界等級 $B = 28.1$, $R = 27.5$, $i' = 27.4$ & $z' = 26.8$ (AB等級、 3σ 、2”口径での値)を達成した。ESA XMM-Newton衛星でのX線観測では、 > 10 の銀河団候補と約1000個のX線源候補天体がこの天域で発見された。またVLAでの電波観測も、可視でのサーベイ領域全部を $S_{1.4} = 8 \mu\text{Jy}$ までカバーし、 $> 1,000$ 個の電波源を検出した。現在これらのX線源、電波源、LB銀河、銀河団、重力レンズ候補天体、等についてのフォローアップ分光観測をすばる望遠鏡FOCAS等を使って進めている。春期学会では、初期成果のまとめと、撮像データの公開内容およびその予定について紹介する。また、同サーベイ領域の多波長観測計画の進捗状況についても言及する。